

- 1 力込めつゝ春のパンテイライン
- 2 啓蟄やまづ乾杯のビールから
- 3 蝶円きビルに沿ひつゝ赤黄男の忌
- 4 春昼のこの指とまれ誰でもよい
- 5 抱けば少年無言となりぬ康成忌
- 6 タイル画にアドリアの海暮れかぬる
- 7 次々と坊主風船もて飛翔
- 8 落椿命ひとつを持って余す
- 9 こと終へて男娼夢を語る春
- 10 あたたかやパパのお嫁になりたしと
- 11 のどかなりねこがねずみを追ふはなし
- 12 辛夷咲く里よばあばの糸車
- 13 椿落ち地の美しくなりにけり
- 14 春惜しむ「I LOVE YOU」といふ歌に
- 15 忌野忌悪い予感もしやしねえ
- 16 縫ひ閉ぢられぬ夢がありけり修司の忌
- 17 草原のやうにシャワーのあとの部屋
- 18 舞姫の素足に痣のありにけり
- 19 朱夏そしてわが詩に恋の多きこと
- 20 カルメンのやうにゆらめく金魚かな
- 21 助さんに格さんがゐて水羊羹
- 22 神様のやうに牛馬を冷やしけり
- 23 あまたなる麦酒の果ての校歌かな
- 24 薔薇に掛けたる一枚の更紗かな
- 25 手をのべて夕立に乳房ありしころ
- 26 麦酒呑むためだけそれだけのわたし
- 27 海霧やがて命となりて死となりて
- 28 長靴は井戸のほとりに髪洗ふ
- 29 茄子焼けば真実父は一人きり
- 30 人造の胸の谷間を夏めきぬ
- 31 よく当たる宝くじ売場より蠅
- 32 裸にて大路を踊り来る群衆
- 33 梅雨いよいよ激しヴァギナ・デンタータ
- 34 桜桃忌薄倅にして不美人な
- 35 紫陽花は揺れて何をか絶叫す
- 36 生ききるはずもなきわたしが蟻の中
- 37 夢に金魚燃えつゝわれを睨みけり
- 38 蚊は死してコップの海を漂流す
- 39 いちじくや化粧厚くて貧しくて
- 40 お花畑生命線は手首越え
- 41 栄養の行きわたりたる毛虫かな
- 42 夏蝶はほどけぬやうに舞ひ上がる
- 43 孔子老子夏めく午後を寝転がる
- 44 母ちやんのやうなトマトをもぎにけり
- 45 蜥蜴の尾びよこびよこ動くバカボン忌
- 46 知らぬ子の親の名知らず炎天下
- 47 七月の炒飯大盛苺まで熱し
- 48 遠泳の一人はすぐに立ちにけり
- 49 溽暑の缶よりだらだらなるペンキ
- 50 列なして蟻を見つむる男たち

- 75 ゆるやかに道岐れゆく冬日和
- 74 霜降の廊下に女身立たせけり
- 73 くれなゐの月なればわれ虎を産む
- 72 鳩吹や森は突然野に開く
- 71 夜長のピエロに今もレーニン伝
- 70 満月や人形に刺す釘を選ぶ
- 69 流星や百年経つたら帰つておいで
- 68 こほろぎ鳴け鳴け此岸はつまらなかつた
- 67 死に場所を荒野と決むる捨案山子
- 66 松茸を入れ忘れたる松茸飯
- 65 また誰か西瓜と話しはじめけり
- 64 西瓜転がりてニッポンの親父さん
- 63 西瓜からグリコ・森永事件まで
- 62 今迄は西瓜と呼んでをりにけり
- 61 ゴルゴダの丘を転がりゆく西瓜
- 60 終戦忌傷あまたなる魚の口
- 59 ペンキまみれなる残暑の一軒家
- 58 トイレ磨いて台風お迎へ中
- 57 鯊釣の家族の横にゐる女
- 56 檸檬一つ神を信ずる者目掛け
- 55 デイスイズアペン秋立つ日なりけり
- 54 晩夏光ニユルンベルクに木槌の音
- 53 レイバウなまぬるしましろしセイシンカ
- 52 子は跣足アベベも跣足人は死ぬ
- 51 炎暑の太陽世界完結して真白
- 76 火事消えて水むらさきのまゝ流る
- 77 外套の襟立て直す帰郷かな
- 78 短日やハグも刺殺もできる距離
- 79 次の人へマスクを渡す日となりぬ
- 80 落涙とならず綿虫となりけり
- 81 ショールまとひ知らぬ男に逢ふ時間
- 82 頬被電車乗らずに睨みくる
- 83 鉄骨錯綜大地に冬の雨
- 84 狼として殺されし者の墓
- 85 病室を誰も動かぬ寒さかな
- 86 数へ日の日誌の端が折れてゐる
- 87 休職にボーナスのある今世紀
- 88 竹馬の叔父が全く動かざる
- 89 サンタクローズ結婚指輪してをりぬ
- 90 初夢は狂気の沙汰となりけり
- 91 丑三つの雪女より一一〇番
- 92 メイド・イン・近所のおばちゃんおでん食ふ
- 93 スエターの黒き建築家の卵
- 94 ねんねこに子もなく話しかけてゐる
- 95 寒の夜の翼たたみて自死の人
- 96 葉牡丹がやがて胎児となる日まで
- 97 氷瀑や数千兆の注射針
- 98 人間がこんなにもゐる日向ぼこ
- 99 生くる子が首吊る子へとなりし冬
- 100 毛布一枚わたしは自由である